

寅さん歩 その19

バーチャルウォークで 日光道中を歩くー1



平野 武宏

バーチャルウォーク中山道六十九次（東下り）で江戸・日本橋へ戻った寅次郎、同じバーチャル記録帖にあるバーチャルウォーク日光道中二十一次で日光神橋（写真右上）を目指して、江戸・日本橋を出立します。歩く進度はお散歩程度になりましたが、バーチャル記録帖の1マス2kmを塗りつぶしながら日光道中を楽しみます。日光道中とは江戸時代の正式な呼び方で現在の日光街道です。徳川家康の廟所 日光東照宮が建てられ、その参詣の道として賑わいました。

宇都宮宿までは奥州道中（奥州街道）と同じ道です。

寅次郎のバーチャルウォーク日光道中は2回目で1回目は2020年11月～12月に歩き、寅さん歩348～351東京の博物館めぐりの中で経過報告をしています。

今回は各宿場を紹介しながら歩きます。街道歩き委員会 内田 晃著「40代からの街道歩き 日光街道編」（集英社/三省堂書店）、五街道ウォーク・八木牧夫著「日光街道 奥州街道」（山と溪谷社）を参考にしました。写真は無料画像を使用しています。

[江戸・日本橋] 東京都中央区日本橋、日本橋室町

最寄駅 東京駅八重洲中央口

2024年7月8日江戸・日本橋（写真下左）を出立しました。



日本橋は徳川家康により整備された五街道(東海道、中山道、甲州道中、日光道中、奥羽道中)の起点です。日本橋の中央には五街道の起点を示す道路元標が埋設されています。写真上右は日本橋の北詰めに置かれている日本国道路原票のレプリカです。

[千住宿] 東京都足立区千住二丁目

最寄駅 東京メトロ日比谷線・東武線 北千住駅

2024年7月11日千住宿(日本橋から8km)に到着しました。江戸時代の千住宿は江戸四宿の一つでした。四宿とは江戸から地方へ延びる街道の最初の宿場町で、旅に出る人や見送りの人にとっては近郊の遊び場として賑わいました。日光道中・奥州道中の最初の千住宿は東海道の品川宿、中山道の板橋宿、甲州道中(甲州街道)の内藤宿より人口や家数が多く、宿場よりむしろ商家の多いまちでした。写真下右は江戸時代の商家建築が今も残る横山家住宅(紙問屋)です。千住宿は2025年(令和7年)開宿400年を迎えます。

千住の地名の由来は荒川で「千手観音」が魚網にかかったとか、足利義政の愛妾「千寿」の出生の地であったなどの諸説があります。

千住は1689年(元禄2年)に奥州・北陸を巡り、俳諧紀行「おくのほそ道」を記した俳人・松尾芭蕉の矢立初の地です。日本橋から宇都宮宿までの17宿は奥州道中(奥州街道)の宿駅を兼ねています。



[草加宿] 埼玉県草加市住吉二丁目

最寄駅 東武スカイツリーライン 草加駅

2024年7月19日草加宿（日本橋から18km）に到着しました。

草加の地名の由来は諸説あります。人馬の通行も困難な草の深い地に二代将軍 徳川秀忠が鷹狩りに来た時に草木を束ねて通路を開き、秀忠から「草の大功」といわれたからとか、湿田を「そう・が」と呼ぶことからとか、砂地を「ソガ」と呼ぶことから転じたとかが伝わっています。写真下左は江戸時代に千本松原と呼ばれた通りで、松の木がうっそうとした緑のトンネルを形成して街道の名所でした。1982年（昭和57年）遊歩道として松を保護して整備されました。



草加といえば「草加せんべい」（写真上右）です。江戸時代に余ったお米を保存するために団子状にして乾かしたのが草加せんべいの原点だそうです。また、おせんさんが売れ残った団子を平にして乾かしたとの説もあるそうです。草加せんべいは草加宿で売られ、各地に広まりました。

2025年（令和7年）1月28日八潮市県道での大規模な道路陥没事故で排水規制を受けたのは八潮市の隣の草加市からこれから出てくる幸手市までの市・町が対象になっていました。

[越ヶ谷宿] 埼玉県越谷市大沢一丁目

最寄駅 東武スカイツリーライン 北越谷駅

2024年7月21日越ヶ谷宿（日本橋から24km）に到着しました。

写真下左は国の登録有形文化財指定の「旧大野家住宅」です。120年の歴史を持つ古民家を改修して市民の憩いの場の複合施設として利用されています。



写真右は1604年（慶長9年）徳川家康が建てた越ヶ谷御殿跡です。家康や秀忠は鷹狩りですばしば宿泊しました。1657年（明暦3年）江戸の大火で江戸城が焼失したため、将軍の仮御殿として江戸城二の丸へ移され、現在は越ヶ谷御殿跡地の石碑のみがあります。

越谷の地名の由来は「越」は山や丘のふもと、「や」は湿地などの低い所を称し、当地の地形によるとのことです。

1954年（昭和29年）の合併で越谷町が成立した際に合併前の越ヶ谷町と区別するために「ヶ」を取り「越谷」となりました。

〔粕壁宿〕 埼玉県春日部市粕壁東二丁目

最寄駅 東武スカイツリーライン・東武野田線 春日部駅

2024年7月30日粕壁（かすかべ）宿（日本橋から36km）に到着しました。

粕壁宿は古利根川の舟運により江戸と結ばれ、諸物資の集散地として栄えました。旅人が最初に泊まる宿でした。

地名の由来は南北朝時代（14世紀）新田義貞の家臣 春日部氏が当地を領地としていたことからとのこと。写真下左は春日部氏が鎌倉の鶴岡八幡宮から勧請したと伝わる古社の「春日部八幡宮」です。

粕壁の表記は江戸元禄期からのもので、1944年（昭和19年）の合併で現在の

春日部の表記に統一されました。写真下右は街道にある白い漆喰壁の建物です。



[杉戸宿] 埼玉県北葛飾郡杉戸町杉戸二丁目

最寄駅 東武スカイツリーライン 東武動物公園駅

2024年8月2日杉戸宿（日本橋から42km）に到着しました。
杉戸は古くは「杉開（すぎと）」と書き、杉の群生する港で日本武尊も東征の折に上陸した地点だそうです。写真下左は杉戸宿古民家、写真下右は復元された「高札場」で法令などを知らせる告知板です、



[幸手宿] 埼玉県幸手市中一丁目 最寄駅 東武日光線 幸手駅

2024年8月4日幸手（さって）宿（日本橋から48km）に到着しました。

幸手の地名は「薩手」とも書き、農業神を祀ったことに由来するとの言い伝えがあるそうです。幸手宿は日光御成道と日光道中が合流し、筑波道が分岐する地点の宿場町として賑わいました。権現堂河岸には江戸舟運の廻船問屋が軒を連ねていました。写真下は昔の面影を残す古民家です。



[栗橋宿] 埼玉県久喜市栗橋北二丁目

最寄駅 JR東北本線・東武日光線 栗橋駅

2024年8月6日栗橋宿（日本橋から56km）に到着しました。栗橋宿は利根川の舟運で榮えて近郷から集積された廻米の積み出しが行われました。この地は関東平野北部に位置し、日光道中でただひとつの関所（写真下左）が置かれ厳重に江戸への出入りが警備されました。河川の関所は対岸の地名を冠するため、正式名称は「房川渡中田御関所（ぼうせんわたしなかだおんせきしよ）」といました。利根川対岸の中田宿は合宿で問屋業務は半月交代で勤めました。



栗橋には源義経の愛妾「静御前の墓」(写真上右)があります。義経の後を追って奥州へ向かっていた静御前はここで亡くなり、同行の侍女により寺に葬られました。寺は移転しましたが、墓は残り、江戸時代の1803年(享和3年)勘定奉行・関東郡代により新たな墓が建立されたそうです。

[中田宿] 茨城県古河市中田

最寄駅 JR東北本線・東武日光線 栗橋駅

2024年8月6日中田宿(日本橋から56km)に到着しました。



中田宿(写真上左)は「房川の渡し」を控えて創設された宿で、小さな宿だったため、栗橋宿とは合宿で問屋業務は半月交代で勤めました。中田宿の町並みは利根川の河川敷と土手になってしまいました。「鮎の甘露煮」(写真下右)が名物です。

今回はここまでとします。

平野 寅次郎 拝